歴史地震
第36号 (2021) 270頁

［講演要旨］

昭和東南海地震のモニュメントの建立と社会的背景

新田康二（三重県立松阪高等学校・通信制）

§1. はじめに

昨年・2019 年 12 月 7 日は,1944 年12.月 7 日の昭和東南海地震発生から 75 周年との事で三重県主催の記念行事が,南牟婁郡御浜町で開催された.また,名古屋大学減災連携研究センターは,クラウドファンディングにより報告書『昭和19年　東南海地震』を発刊(2019 年3月)し,愛知県内の被害・地震モニュメント・証言記録・各市町村史の記述のアーカイブを集成した.かかる点で,三重県内の地震モニュメントについて、その建立と社会的背景を,他の自然災害（主に風水害）との関連性を含めて,以下で論究する.

§2. 年代ごとの建立と社会的背景

1）昭和 20 年代（1945～1954 年）～6基の建立

番号	建設年	名称	所在地	建立者
①	1946（昭和21）年12月７日	故三重縣警部補	熊野市新鹿・	三重県警察本部
		堀江武雄君殉難之碑	共同墓地	
②		津波供養寶塔	度会郡南伊勢町	西脇忠五郎
			古和浦・甘露寺	五代吉太郎
③	1947（昭和22）年７月	加藤六一君殉難之碑	旧伊勢警察署	三重県警察本部
			南島幹部交番前	・４村長
④	1951（昭和26）年	東南海地震津波碑	熊野市新鹿	吉田慶三
			JASA前	
⑤	1953（昭和28）年７月	津波之碑	紀北町三浦・	三浦区
			海岸堤防下	
⑥	1954（昭和29）年12月７日	大震肇災記念碑	大紀町錦・	錦村役場
			金蔵寺	

表１：昭和 20 年代に建設されたモニュメント

地震モニュメントの①・③は,地震発生当時の三重県警察部の警部（吉津警察署長）と巡査一家の慰霊碑（供養費）であり,②・④・⑤・⑥は,それぞれの地域における被害実態を如実に叙述している.②は,①と同時期に,3回忌に建立されている.④は,7回忌に,⑤は9回忌に建立され,⑥は 10 周年に建立された.この時期の6基は,慰霊碑2基・教訓碑4基に分類される.⑤が建立された直後, 1953 年8月15日の「南山城豪雨」の水害・山崩れ（関連石碑2基）,9月25日の「台風13号」（関連石碑 8 基）により,三重県伊賀地方・南部は,激甚災害に見舞われている.

2） 昭和 30 年代・40 年代（1955～74 年）～建立１基

この20年間は,三重県は,1959年9月26日の「台風15号」（伊勢湾台風,関連石碑60基）による,戦後最大の災害に見舞われた.1960 年5月24日の「チリ沖地震津波」では,死者1名・全半壊 87 軒・浸水家屋 6,152 軒・被害船舶 33 隻・被害世帯数 3,355・被災者数 15,796 人などの被害があったが,残念ながらモニュメントは建設されなかった.ただ,昭和 40 年前後から,三重県内では井之浦湾（熊野市）・大白池（北牟婁郡海山町）・城之浜（北牟婁郡長島町）・芦浜（度会郡紀勢町・南島町）の4カ所で,原子力発電所建設が計画され,反対運動が展開されだしていた. 紀北町名倉の供養碑は, 空白期間 20 年後の建立であった.

番号	建設年	名称	所在地	建立者
①	1974（昭和49）年6月24日	供養碑	紀北町名倉	名倉区

表２：昭和 40 年代最後のモニュメント

3）昭和 50 年代・60年代（1975～88）～建立 11 基

番号	建設年	所在地	建立者
①	1980年9月1日	熊野市南母町南母須野漁村センター	熊野市役所
②		熊野市二木島里町	
③		熊野市二木島町	
④		熊野市二木島町・二木島郵便局南際	
⑤		熊野市二木島里町旧荒坂中学校進入路	
⑥	1981年9月1日	熊野市新鹿町・旧新鹿温泉手前	熊野市役所
⑦		熊野市新鹿町里川・国道311号線橋北詰	
⑧		熊野市新鹿町・民家の庭先	
⑨	1982年9月1日	熊野市新鹿町605番地	畑名　均
⑩		熊野市磯崎町・民家のコンクリート塀上	熊野市役所
⑪		熊野市大泊町・泰清寺門前	
⑫	1992年2月28日	熊野市遊木町・旧遊木保育園敷地	熊野市役所
⑬	2009年3月	森本福太郎顕彰碑Ⅰ・Ⅱ／熊野市二木島町	熊野市役所

表３：1980（昭和 55）年以降の熊野市のモニュメント

熊野市内における原発反対運動は,熊野市職員組合を中心にして起こされた.かかる点で,「東南海大地震津波到達点碑」①～⑧・⑩・⑪の10基が,昭和東南海地震の津波遡上高地点に建立された事は意義が大きかった.一方,それ以前の南海トラフ巨大地震津波高・津波遡上高の最大高は意識されなかった.

§3. 大紀町錦地区のモニュメント建立と社会的背景

番号	建設年	名称	所在地	建立者
①	1987年12月7日	大津波供養碑	錦・船付墓地	紀勢町長谷口友見
②	1988年春	「大津波潮位指標」塔	錦・市場近くの公園	
③	1989年10月29日	平安の碑	錦・築地公園	
④	1998年	錦タワー・タワー	大紀町錦	
⑤		錦タワー・潮位標		
⑥		錦タワー・説明板		
⑦	2004年秋	大津波供養碑	錦・神武台公園	
⑧	2004年秋	第2錦タワー・タワー	大紀町錦	
⑨		第2錦タワー・潮位標		
⑩		第2錦タワー・説明板		

表 4:大紀町錦のモニュメント一覧

度会郡紀勢町（「平成の大合併」で大紀町となる）町長の谷口友見により,多くのモニュメントが建立された.1993 年の北海道奥尻島沖地震の被災地を視察した谷口町長は,錦タワーを 1998 年建設した.2004 年9月５日,深夜の「紀伊半島南東沖地震」（M7.1→M7.47→M6.9）発生時には,錦地域内の8割の住民が避難できたが,その年の秋に第２錦タワーが完成した.防災意識の高さがモニュメントの建立を促進した.

§4. おわりに

三重県の災害に対する意識は,戦後75年間風水害に止まっていた.FWの中で語られるのは,台風13号と伊勢湾台風である.津波避難タワー23 基・命山2基の建設が近年進む一方.「3・11」以降,9 年を経て,地震・津波への防災意識の低下が危惧される.